

日 本 ボ ス ト ン 会 会 報

発行所 日本ボストン会事務局 〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6 Fax03-3792-6776

日本ボストン会創立20周年を迎えて

会長 法眼 健作

私は2010年～2012年にわたり本会の会長をさせて頂いた。ハーバード、MITのOBと総領事館、企業の在勤経験者が各々2年交代で会長を勤めるというもので、かつて総領事だった私がおおせつかったものである。

誠にソフィスティケートかつリファインされた方々の集まりであり、日本の最高のレベルの知見と経験を持った方々である。それはその筈である。日本の最高レベルの教育を受けた上で、ハーバード、MITに学ぶのだから、文字通り選ばれた人々である。その上、奥様方、御婦人方が素晴らしい。多くの場面で男性達より優れた見識を示された。何とか大過なく2年間を勤めることが出来たのも、幹事会の素晴らしい皆様方に支えていただいたおかげであり、心から感謝申し上げたい。

日本とボストンは表面に出ない深いつながりがあり、年々日米関係が成熟する上でそのようなつながりが足腰の強さとなって大切な意味をもっていると考えます。

例えばボストン日本協会は「Japan Society of Boston」が正式名称である。これは19世紀末から20世紀初頭にかけてボストンの最有力者達、いわゆるブラーマン達が日本文化の深さと繊細さにびっくりして「日本研究グループ」

をこしらえたのが発端である。そこには日本側はいなくて、ボストン人が集まって日本研究会としてこしらえたものである。これはすごいことで、米国各地にある後発の「U. S. -Japan Society of XXXXX」とは、そもそもの成り立ちが違うのである。私はこういう歴史的経緯は大切にしないとイケないと思う。なればこそ、昨年3月11日の東日本大震災の際にボストンを中心とするニューイングランドから示された好意と支援は、心のこもった大きなものであったことは、皆様ご承知のとおりである。(9頁参照)

そういう中で、最近わが国からハーバード、MITに留学する学生の数が大幅に減少していると聞く。中国、韓国の学生、特に中国の両大学のへの留學生の数は年々ほぼ倍々で増えているようである。あらゆる面での知見は国家の財産である。昨今のわが国を見ていると、政治、経済、外交、教育等々ほとんどの分野で安易に流れすぎているのではないかと懸念するのは私一人ではないと思う。

最後に重ねて皆様方に御礼を申し上げるとともに、次期会長のMITOBの長島雅則様は活発にMITとの交流を実践しておられる方なので、当会とボストンの交流が増々進展するようよろしくお願い申し上げたい。

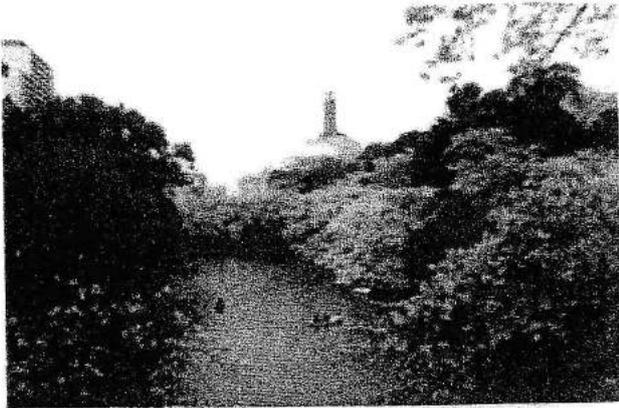
日本ボストン会のイベント

10月13日(土)・14日(日)紅葉狩りの会、	11月22日(木)懇親ゴルフ会
11月10日(土)14:00～19:00 総会・20周年、	2013年1月6日(日)伝統芸能の会、
11月17日(土)美術と歴史の会、	2013年4月 観桜会

日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。<http://www1.biglobe.ne.jp/~boston/>

2012年4月8日(日)観桜会報告

幹事 生田 英機



昨年は、東日本大震災と原発事故の影響で恒例の花見会は中止しました。そして満を持しての今年は4月8日、お花見にはちょっと肌寒い気温でしたが、千鳥ヶ淵周辺の染井吉野の桜木は押し並べて見事な満開でした。

この界隈の桜の樹齢は、平均約60年、ソメイヨシノでは最も盛りの時期の満開桜で、加えて当日は今年最後のライトアップの演出もあって見事でした。そのためか、周辺混雑はそぞろ歩きもままならぬ人出でした。

今年は、集合時間を1時間繰り上げ午後5時にいつもの三井アーバンマンション前に集合しました。例年の花見の常連諸兄の姿が少なかったのですが、幸い水野さんから預かった制作後初めて利用するボストン会旗を目当てに参集した出席者は、HCJからの参加者もあって総勢19名。

懇親会場は馴染みのホテル・グランドパレスカトリア。なかなかの味のローストビーフはじめ、バイキング食と好みのお酒で盛り上がりました。

堪能しつくした花見でしたが、酒席で、幹事が選定した桜花を詠んだ俳句、短歌を紹介(別項参照)、歌を通じた室内二次会花見も楽しみました。

桜歌の歌人: 1) 芭蕉、2) 蕪村、3) 上島鬼貫、4) 一茶、5) 木戸孝允、6) 正岡子規、7) 高浜虚子、8) 漱石、9) 杉田久女、10) 南うみお、11) 小野小町、12) 西行法師、13) 紀友則、14) 小野老(おのおゆ)、15) 在原業平、16) 紀貫之、17) 本居宣長、18) 岡本かの子、19) 与謝野晶子、20) 俵万智。

桜歌出題 20題: 詠み人は?

- 1) 花の雲 鐘は上野か 浅草か
- 2) 旅人の 鼻まだ寒し 初桜
- 3) 骸骨の上を粧て 花見かな
- 4) 散る花の ぱっぱと春はなくなりぬ
- 5) 世の中は 桜の下の 相撲かな
- 6) 銅像に集まる人や花の山
- 7) 番町や館 館の花曇り
- 8) 桜散るあなたも河馬になりなさい
- 9) 花衣脱ぐやまつわる紐色々
- 10) 花びらを乗せて走れり厨水(くりやみず)
- 11) 花の色は 移りにけりな いたづらに
我が身世にふる ながめせし間に
- 12) 願わくば 花のもとにて 春死なむ
その如月の望月のころ
- 13) 久方のひかりのどけき 春の日に
しづ心なく花の散るらむ
- 14) あおによし奈良の都は咲く花の
薫(におう)ふがごとく今盛りなり
- 15) 世の中にたえてさくらのなかりせば
春の心は のどけからまし
- 16) 桜花ちりぬる風のなごりには
水なきそらに波ぞ立ちける
- 17) しきしまのやまと心を人とはば
朝日ににほふ山桜ばな
- 18) 桜ばないのち一ぱいに咲くからに
命をかけてわが眺めたり
- 19) 木の間なる染井吉野の白ほどの
はかなき命抱く春かな
- 20) 逆光に桜はなびら流れつつ
感情の内にも木は育ちゆく



音楽の会

第7回定期ホーム・コンサート 2012年5月20日(日曜日)

いつものように、日曜日の午後の一時を、関さんの素敵なお宅で、コンサートを楽しみました。

今回は、ボストン・パークリー音楽院に留学していた同級生トリオ(1978年)によるジャズの演奏会でした。

私は、ジャズを聴くチャンスがありません。それが、今回のコンサートに参加させていただいた理由の一つです。たまには、ジャズを聴いてみようかと。

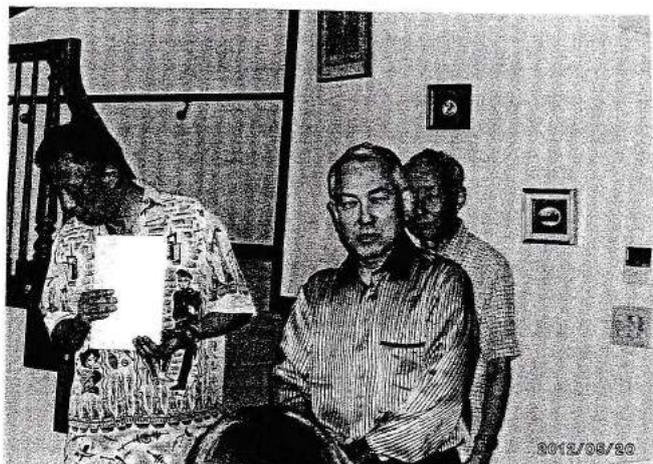
コンテンポラリーとスタンダードのジャズとプログラムにはありましたが、どれも聴き慣れた曲のように感じました。気持ちを音楽に委ねて、リラックスして過ごす時間は、とても気持ちのよいものです。

そしてジャズに加えて、ボサノバも演奏してくださいました。これも、大変懐かしい曲ばかりに思えて、とても楽しい一時を過ごすことができました。

演奏会の後は、いつものように、関さんご夫妻の“おもてなし”で、おいしい食事と、皆さんとの楽しい会話を堪能いたしました。これもボストン会の魅力だと思います。

今回のジャズ演奏をして下さった、ヒロ高田、河原秀夫、井上信平3氏に感謝いたしますとともに、いつも、このようなコンサートを催して下さいます関さんご夫妻に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

長島雅則



左から、井上信平、長島雅則、関直彦(敬称略)



左から、ヒロ高田、井上信平、関直彦、長島雅則、河原秀夫(敬称略)

*ヒロ高田(ピアノ)

パークリー音楽院を80年卒業、ニューヨーク・ジュリアード音楽院(89-90)にて作曲を研鑽、代表作「Portrait in New York」。

*河原秀夫(ベース)

パークリー音楽院、ジュリアード音楽院にてクラシックを学びながら、NYにて有力バンドに参加、帰国後も一流バンドで演奏。現在は自らリーダーとしてバンド「ペンタグラム」で演奏するほか、有力スクールにて講師を務めている。

*井上信平(フルート)

パークリー音楽院、ニューヨーク・マネス音楽院に学び、NY中心に著名ジャズクラブやフェスティバルで演奏活動中。91年より日本に戻り、国内外で精力的に活動。ご機嫌なジャズ・アルバムを出している。

今回のホーム・コンサートは、ボストンのパークリー音楽院出身の3人を迎えて、ジャズ・コンサートとしました。ピアノは当会会員のヒロ高田、ベースは河原秀夫、フルートは井上信平、いずれも国際的に活躍中のジャズ・マン。30人余りの聴衆は、素晴らしい演奏に魅了され、アメリカでの過ぎし良き日々を想い起こしました。演奏が終わった後は、例によって懇親会に移り、会話に楽しく花を咲かせました。

次回のホーム・コンサートは未定ですが、またボストンゆかりの演奏家を迎えてのクラシック・コンサートとします。

音楽の会担当幹事 関直彦・尚子

2012 年春季ゴルフ懇親会の報告

日本ボストン会の春季ゴルフ懇親会は4月12日に、川崎国際生田緑地ゴルフ場にて、10人が参加して行われました。

当日は快晴に恵まれ、今年は開花が少々遅かった桜の花が満開で、ゴルフと花見が同時に楽しめる贅沢な会になりました。

佐藤和子さんが、素晴らしい成績でぶっちぎり優勝されました。次回は、11月に同じ川崎国際で開催したいと思っております。

ゴルフ担当幹事 山崎 恒

優勝の喜び

2012年4月12日、春季ゴルフ懇親会においてうっかり優勝してしまいました。

何はともあれ、嬉しいやら、恥ずかしいやらで思わぬ幸せ感を味わうことができました。

お陰様で嬉しい思い出ができました。

いつもコンペのお世話を下さる山崎恒様にますますの感謝を持ち、次回秋季ゴルフ懇親会を楽しみにしております。

佐藤和子

一繕乃会ご寄付と

ボランティアのお願い

一繕乃会は、まことにまことにささやかな活動を続けております。以下の活動へご協力を頂けましたら、幸甚に存じます。

* 「ファミリーハウス」へのご寄付とボランティア活動。 <http://www.familyhouse.or.jp>

* 手作りの小物及び新品不用品募集
(「ファミリーハウス」および児童養護施設「野の花の家」の資金集めを目的としたバザー等で販売)。 <http://www.hanazanki.jp>

ご協力、ご興味を頂けましたら、下記へご連絡下さいませ。

水野賀弥乃

ハイキングの会

2012年4月1日(日)

久しぶりのハイキングの会は、小田急線鶴巻温泉駅から弘法山(235m)、権現山、浅間山を歩き、秦野駅までのコース(7.2km)でした。

梅、菜の花が咲く畑から山道に入り、1時間ほど登ると「めんようの里」からは羊の鳴き声も聞こえてきました。

弘法山公園は明治期に草競馬を行った馬車道付近一帯が桜の名所ですが、一輪も咲いていませんでした。たくさんつぼみは確認しましたので、満開の1週間前だったようです。残念!

山頂は、空気の澄みきった秋や冬には富士山から江の島まで眺望できる絶景のポイントです。弘法山公園山頂でおにぎりを食べ、久々のハイキングを満喫しました。やっぱり自然はいいですね。

幹事の幸野さん、ありがとうございました。

土居嘉子

美術・歴史の会

三菱の創始者、岩崎家の静嘉堂文庫、世田谷区、を訪れ、創設120周年記念展“岩崎弥之助(二代社長)のまなざし 古典籍と明治の美術”を鑑賞します。

日時: 2012年11月17日(土)(予定)。

申込締切: 2012年11月10日(土)。

問合先: 篠崎

酒井

三好

2012年紅葉狩りの会

日時: 2012年10月13~14日

場所: 美ヶ原高原

宿泊: 王ヶ頭ホテル

高原全体が赤や黄色に染まり、松本駅からホテルまでの眺めが絶景であると言われていました。

昨年からの持越された計画で、予約は終わっています。

好天に恵まれることを願っています。

幹事 藤盛紀明・富美子

伝統芸能の会

平成 25 年初春歌舞伎公演(国立劇場)観劇の会を下記の通り開催いたします。会員の皆様のお申込みをお待ち申し上げます。

記

●初春歌舞伎公演:平成 25 年 1 月 6 日(日)正午開演

●河竹黙阿弥作

「櫓太鼓鳴門吉原」より「夢市男達競(ゆめのいちおとこだてくらべ)」、尾上菊五郎(=監修)、尾上松緑、尾上菊五郎、中村時蔵 ほか出演。

●河竹黙阿弥(1816-1893)紹介。(没後 120 年)

「江戸歌舞伎の大問屋」と称される名作者。自ら会心の作と認めた(白波物)の代表作「三人吉三」など様式性・音楽性に富む世話物を書き、江戸歌舞伎の粋を集めた名作を残した。

●料金:

A 席(団体割引料金) 8,280 円 ①

昼食(歌舞伎幕の内弁当) 1,500 円 ②

基本料金 ①+② 9,780 円

●オプション料金(希望者)

プログラム @800 円、(10 名以上@720 円)③

イヤホンガイド@650 円、(10 名以上@600 円)④

●参加申込書

*参加者の氏名(2 人の場合は、夫々記入)

*電話番号、メールアドレス。

*プログラム希望の有無と数量。

*イヤホン希望の有無と数量。

*参加費用一人:9,780 円+ ③ +④

二人:19,560 円+ ③ +④

*合計金額=振込金額

計算例①:(opt 無し)9,780+0+0=9,780 円

②:(opt 各 2)19,560+1440+1200=22,200 円

●申込先:滝沢典之

0

参加費振込前に上記の参加申込をお願い致します。

●申込締切日(参加費振込完了日):

平成 24 年 11 月 22 日

●参加費用振込先:

●振込手数料が発生する場合は、送金者をご負担願います。前回同様、申込後のキャンセルはできかねますので、ご了承ください。

●幹事: 吉野静子・滝沢典之

日本ボストン会創立 20 周年記念行事関係

記念講演

「大気汚染の嘘と本当」

顧問 吉野耕一

過去半世紀、世間を騒がせた上層大気汚染の問題は 1970 年代のオゾン層崩壊と最近の地球温暖化である。

これらの問題を報道したメディアの取り組みと科学的本質との絡み合いも興味の深い問題で、現在進行している放射能と報道で作り出される一般人への恐怖が本当なのか、オゾン層崩壊での危機は本当だったのか、地球温暖化は本当に進行しているのか等の疑問を振り返ってみる。

今回は特にオゾン層崩壊について問題を絞ってみる。オゾン層崩壊で危険な紫外線が地球表面に達し、皮膚癌等発生の危険が報道された。この為にオゾンを破壊する物質の大気中への放出が規制され、その結果大気汚染が改善された。その間にどの位の皮膚癌増加について全く報道されていない。

上層大気中でのオゾンの存在、太陽光との関連、オゾンの発生と破壊、これら光化学反応の起源になる色々な太陽光、大気中分子と光の関連などを考えてみる。

記念出版報告

「フェノロサ、ビゲロウと三井寺法明院」

山口静一

“美術の会”と“歴史を飲もう会”との合同企画「大津一湖都の路(新緑の古社寺めぐり)」が実現したのは平成 19 年 5 月でした。その一環としてボストン美術館と因縁の深いフェノロサ、ビゲロウの墓がある三井寺法明院を訪れることとなり、当時の住職滋野敬淳阿闍梨(故人)と小生が 25 日ご案内役を引き受けることとなりました。

その折この二人のボストニアンが如何なる経緯で法明院に葬られるにいたったのかをお話したのですが、これを文章化して本会報に 2、3 回掲載の予定が、思いがけず 5 年間 10 回連載になってしまいました。この間、編集の俣野善彦氏には 5、6 回に亘る修正に辛抱強くお付き合いいただき、また内容に関しては三好彰氏に貴重なご教示を受けました。

今般、多少の加筆の上イラストを豊富に掲載し、一般向けの平易な読み物としてまとめることができました。出版をご承諾いただきました日本ボストン会には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

投稿

会社は誰の物： MEBO(経営者・従業員が参加した会社買収)を体験し

近藤 宣之

今夏、一般読者向けに「ビジネスマンの君に伝えたい40のこと」(あさ出版刊)という本を上梓しました。そこでは毎日実践している経営理念から社員に指導している事柄をまとめてみました。多くの会員の皆様のお子様方のご参考になれば幸いです。

人世の幸福にとって大切なことは、人により様々でしょうが、①愛されることに加えて、②必要とされること、③お役にたつこと、④感謝されることと考えています。この後の三つは働く事で得られることです。だとすれば、企業の役割は、働くことで得られる喜びの場を提供すること、すなわち人を雇用することであり、雇用した人に成長と自己実現の機会を与えることではないかと思えます。

経営の原則としては、①社員の成長が会社の成長です。②社員が会社や同僚や、自分たちの供給する製品やサービスに満足しなければ、③決してお客様を満足させることはできません。ですから、④社員の代表である社長は、社員満足に全力を尽くせば、社員は顧客満足に努力してくれます。

こうした企業で、経営理念を体現する人材の条件としては、いつも笑顔を持ち続け、一緒に働いて楽しい人、生命を受けて、今生きていること、そして仕事を行っていることに対して心から感謝する人、個人の成長と自己実現のために学び続けて行く人、自分自身のためだけでなく、他人のために働く人、そしていかなる問題も自分自身の内にあると認め、その解決に向けて全力を尽くす人と定義しています。

まず入社した若者には、社員としての基本である、① 時間を守る、②約束を守る、③整理整頓をする、④お金とリスクの管理をキチンとする、⑤周りの人への感謝を忘れない、⑥そして粘り強く勤勉に働くことを徹底させます。

その上で行動規範として、⑦情報のキャッチとその伝達を素早く行う、⑧どんな状況でも柔軟に臨機応変に対応する、⑨何事にも興味を持ち深く追求する、⑩誰とでもいつでも明るく笑顔で接する、⑪そして全体最適を考えて誰にでもわかる言葉で話すように指導します。

リーダーや幹部には、①正確な情報に基づき素早い判断を行い、高い確率でより良い結果を得るため

に行動する、②他人に頼ろうとする気持ちを戒め自分に確信を持って行動する、③問題を解決するためには、矛盾なく論理的に考える、④現状に甘んじることなく意識改革に努め習慣や態度を常に改善することで、自分自身を発展させ、進化させる、⑤ビジネスにおいては積極的な態度を維持し常に相手を褒める、⑥自分の信念、情熱そして人生のビジョンを終身維持する、⑦そしてリスクを想定して準備し危機が起これば「なんとかなる」と楽観的に対応するように求めています。

最後に私自身社長としての心構えとしては、①私の周りに起こったことはすべて私への「気付き」(私へのメッセージ)と受け止め、②問題が起こった時には、進化成長のためにもたらされたと考え、まず「有難うございます」と言い、自分の全ての言動に責任を持ち、③他人を決して責めず、④私の言動により好ましいことが起こることもあれば、トラブルの原因となることを自覚するように努めています。しかしこうしたことは言うのは易く、行うのは非常に大変で、つくづく社長業は修行だと痛感しています。

誰もが、幸せになりたいと願います。しかし、幸福になるための条件も手段もありません。幸せになるろうと努力する過程こそが幸せなのだ、ボストンにいたときにある牧師から聞きました。「今ここに生きている自分」を意識する。過去に起こったことに対していつまでもクヨクヨせず、未来に起こるかもしれないことをアレコレ心配しても仕方ありません。常に浮き沈みがあるのが人生です。「人生においては2点間の最短距離は直線ではない」というのは、実感です。

こうした考え方で19年間経営して来て、お蔭様で、2011年5月に「日本でいちばん大切な会社大賞」の中小企業庁長官賞、今年の1月に「新宿区優良企業表彰」の大賞、新宿区長賞、そしてつい最近この10月に東京商工会議所、第10回「勇気ある経営大賞」の大賞を受賞できました。

世間はご縁と感謝の連鎖です。債務超過の会社が再建できたのもご縁のお蔭です。一部上場企業から全社員が株主となって独立できたのも、ご縁と皆様のご支援のお蔭と感謝しています。これからも宜しくお願いいたします。有難うございました。

『毎年 Bentley University からの MBA 一行を迎えて』

近藤 宣之

Boston 駐在時代にご縁があつて、Waltham にある Bentley College の日本ビジネスコースに講義に行くことが数回ありました。

Harvard 大学の Ezra Vogel 教授の "Japan As Number One" という本が出た後であり、学生たちの関心は「日本的経営」についてでした。そこで、「米国法人での経営方針は、一般的米国企業とどう違うのか?」、又「日本での日本的経営とはどう違うのか?」という内容が主な講義でした。

当時の日本電子米国法人(JEOL USA, Inc.)には約 300 人の社員がおり、営業・業務・技術が 3 分の 1、残りの 3 分の 2 の 200 人はアフターサービスのエンジニア。米人が 260 人、日本人はボストンだけで 20 人、全米 12 カ所の支店を含めて 40 人が働いていました。

私は 9 年の駐在を経て 1993 年 1 月からは国内営業担当として日本での仕事に変わりました。ところが Bentley College 担当教授から MBA を目指している大学院の学生たちが日本へ Study Team として行くので、受け入れて講演をして欲しいとの要請を受けました。

これがきっかけで、1993 年以来毎年、Bentley College (昨年から University と名称変更) の MBA Study Team を当社で受け入れ、私の講義と、社員との昼食交流会を行っています。

講義の内容は毎年若干変わりますが、基本的には、下記のような内容です。

1. 企業が経営破綻する要因。
2. 経営再建にあたって重要なこと。
3. 社員の motivation をいかに高めるか?
4. MEBO(マネジメント・バイアウト)による独立、会社は誰のものか?

日本人相手の講演では、終わってからの質問はそう多くはありません。しかしアメリカの学生たち(国籍は多種多様です)は、講義の途中でほとんど手を挙げて質問してきます。

最近では日本的経営に知識が少ない学生が多く、「人を大切にする経営理念」について驚きをもって質問する学生が多いです。特に当社は就業規則

で 70 歳までの雇用を制度化しているので、そうした雇用慣行でも 19 年間黒字を維持し続けている理由を聞かれることがよくあります。

講義のあとは、英語のできる当社の社員 10 人ほどとランチをとりながらの懇談会を 1 時間ほど行います。社員の英語力は TOEIC 865~965 点くらいで、十分コミュニケーションをとれます。20 代~30 代の同世代同士であり、話がはずみます。

2 週間の日本への Study Tour で当社以外には有名大手企業や業界・経済界の団体を訪問していますが、終わってからの感想では、日本レーザー訪問が一番印象に残っていると言ってきております。このような交流を長い間続けられることも誠に有り難いことで、そのご縁に感謝しております。

2008 年 9 月 15 日の米国リーマンブラザーズ・ショックから早くも丸 4 年、未だ世界経済は不安定です。欧州でも経済危機は解決の目途すら立っていません。

こうした時代にバブル崩壊後「失われた 20 年」と欧米からコケにされてきた日本が、「成長なき新しい時代」のフロントランナーとなっていくと思います。

米国 Bentley University の若い MBA 学生との交流を通じて、「信頼、魅力そして共感」= "Confident, Appeal and Respect" の理念を発信し続けています。

そして毎年 1 人程度夏休みの 3 ヶ月間に海外学生をインターンとして受け入れています。来年 6 月からは、Boston 在住の学生をインターンとして迎え入れ、「進化した日本的経営」を学んで貰うと共に、若い世代の交流を更に推進して行くつもりです。(日本ボストン会副会長)

追記: 筆者は自分自身を成長させた仕事の仕方として「ビジネスマンの君に伝えたい 40 のこと」に纏め 2012 年 8 月、(株)あさ出版、東京、から発行されました。定価本体 1400 円 + 税。
(会報担当 俣野)

「フェノロサ記念講演会に」参加して 吉田礼子(奈良在住 会員)

去る6月9日にフェノロサ記念講演会が奈良市の浄教寺本堂に於いて開催された。講師はフェノロサ研究の第一人者である日本ボストン会の山口静一会員であり、演題は「佛教徒になったフェノロサとビゲロウ」であった。この日初めて開花した沙羅(ナツツバキ)が清らかな姿で参加者を出迎えてくれた。

講演に先立って前住職の島田和磨師がフェノロサとの関わりを話された。それによると今から124年前の明治21年(西暦1888年)6月5日に浄教寺本堂で講演会をした。奈良県知事を初めとした要人と市民500名の参加者を前にしてフェノロサは奈良の宗教、美術、文化の重要性とその保護の必要性を訴えた。夜の9時から深夜に及んだが誰ひとりとして席を立つ者は居なかった。この講演にちなみ、平城遷都1300年祭を機会として、2010年からフェノロサ記念講演会を行うこととし今回が第3回目である。

講師は先ずボストン美術館が所蔵するフェノロサとビゲロウの蒐集した仏教美術品を映像で紹介しながら、その歴史的背景やエピソードを織り込んで詳しく解説されたので感動の溜息がもれ、堂内は熱気に包まれた。

そして本題の「佛教徒になったフェノロサとビゲロウ」の話に移った。二人が佛教徒になるきっかけは西本願寺の重鎮の赤松連城(1841-1919)との教学対話であったが、それを記した貴重な資料「萬報一覽」(第54号 鴻明社 明治17年12月25日)を読み解かれた。赤松との教学対話を通してフェノロサは佛教に強い関心を持ち、ついにはビゲロウとともに岡倉天心の紹介で三井寺法明院の桜井敬徳のもとで受戒して佛教徒になった。

山口会員が本会報に連載された記事、ならびにそれを基にした近刊書『三井寺に眠るフェノロサとビゲロウの物語』(宮帯出版社)の良なおさらいの場ともなった。

盛り沢山の講演は予定の2時間を越えた、そして質疑応答も活発に行われた。浄教寺にアンケートの様子を教えていただいた。次のような意見が多かった、という。

- ① 二人が佛教徒になった経緯がよく理解できた。
- ② 歴史上ヘーゲル、アリストテレスの哲学と佛教が一緒だという説にびっくりした。
- ③ 明治初期の日本に自信を与えてくれたフェノロサ、ビゲロウ、天心に感謝。

浄教寺は奈良市街の三条通りに面した古刹であり、境内には樹齢300年を越す有名なソテツがあり、また四季折々に咲く花々が心をなごます町中の寺院である。フェノロサが講演した本堂は不慮の失火で昭和11年1月26日未明に全焼した。現在の本堂は昭和16年に起工し、落慶法要が昭和43年10月に行われた。

なお講演の翌日、山口会員が学生時代さらには大学人として学生とともに好んで散策されたという大和路をご一緒した。法隆寺、法輪寺、法起寺にある斑鳩三塔をことさら愛でられた。この会報が出る10月にはコスモスが咲き乱れ、より一層華やかな雰囲気にも包まれる。古事記が編纂されて1300年目の記念の年でもある。会員の皆様、大和路へお越し下さい。

「フェノロサ記念講演会」余滴

フェノロサの講演を岡倉天心が通訳した。その記録が残っているが、それによるとフェノロサは「奈良に伝わっている古来の美術品は宝物であるが、それは奈良だけでなく日本の宝であり、さらに言えば世界のまたと得難い至宝である。それゆえそれを保存護持することは奈良の人々の義務であり大いなる榮譽である」旨説いている。現在奈良に多数の世界遺産があるのはフェノロサの熱意を受け継いできた証である。

ところで吉田会員は墨象・墨書の作家であり、ボストン郊外ダックスベリ―(Duxbury)の Art Complex Museum で展示会を開いたことがある。その縁もあって、古代建築を見学するため奈良を訪れたマサチューセッツ工科大学建築科の学生に書道を体験してもらった。

なお上記の文中に出ている法輪寺の塔は当初は国宝であったが、昭和初期に落雷によって焼失してしまった。作家の幸田文さんが奔走して復元したが、それは父・露伴が小説「五重塔」のモデルとした谷中の塔が焼失した無念を払うためであったろう。

実は吉田さんのところに真っ黒に焦げた法輪寺の塔の心柱の一部が伝わっていた。吉田さんは繰り返し磨いて木肌が見えるまでにした、そして山口会員との訪問を機に法輪寺に戻されたと同った。これもフェノロサの精神を受け継いだ佳話である。

(美術と歴史の会 幹事 三好彰)

「日本災害復興基金ボストン」の活動近況

フィッシュファミリー財団 プログラムマネージャー 澤目 梢

東日本大震災から数日も経たない3月19日、ボストンにおいてフィッシュファミリー財団 (Fish Family Foundation)の役員 厚子・東光・フィッシュ氏の発案により設立された「日本災害復興基金ボストン」(Japanese Disaster Relief Fund Boston: www.jdrfb.org) は、ボストン財団 (Boston Foundation)、ボストン日本協会 (Japan Society of Boston)、そしてフィッシュファミリー財団の三団体の連携の下、東北の被災地及び被災者を支援することを目的とした活動を展開してきました。

同基金で集められた寄付金は、厳選な審査を経て、東北の人々および地域に根差した支援活動を展開する17のNGO団体とボランティア・グループに、総額\$840,000の助成金として贈られています。(2012年9月現在)。

震災から一年が経ち、人々の記憶が薄れないようにとの願いを込め、同基金は今年3月に「春よ来い」(HOPE for Tohoku)チャリティコンサートを開催しました。ボストンのローカルオーケストラとの共催で行われたこのイベントで、基金創設者のフィッシュ氏が復興にはまだ支援が必要なることを訴えました。

また、支援団体の一つで、東京と仙台に拠点を置いて活動するNPO団体、ビヨンドトゥモロー (BEYOND Tomorrow)から、二名の高校生が招待され、300名ほどの人々を前に、日本語と英語の両方で被災体験を語りました。

会場からは、東北から来た二人の高校生の、生の声で伝えられた悲惨な体験に息をのみ、そこから立ち上がる彼らの勇気を称える感動と嗚咽が聞こえてくるほどでした。

ビヨンドトゥモローでは、被災した若者が世界的に活躍するリーダーへと成長することを目的として、今年8月に同基金からの助成金により「サマー2012 米国プログラム」を実施しました。

被災地から10名の高校生と大学生が招かれ、ニューオーリンズ、ニューヨーク、ワシントンDC、そしてボストンにおいて、復興とまちづくりをテーマにした二週間に及ぶ研修を行いました。

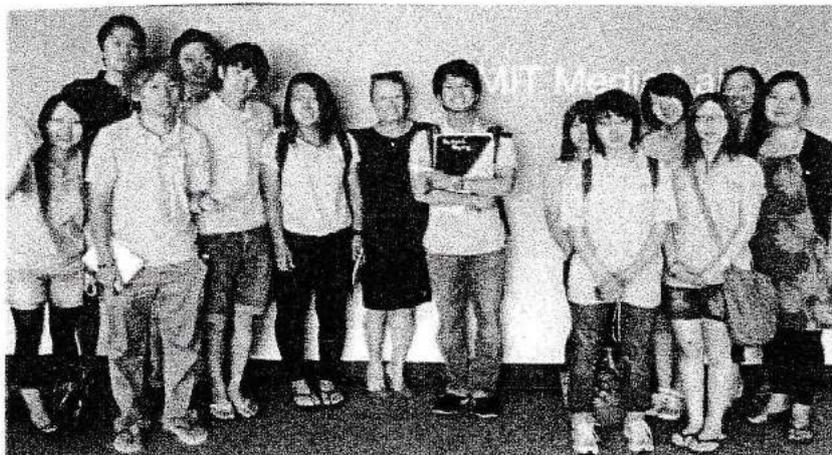
ボストンではMITやハーバード大学において、著名教授による講演や日本人留学生との交流が行われた(写真)ほか、フィッシュファミリー財団による歓迎レセプションが催されました。

レセプションでは、震災で家族や友人を失った悲しみを乗り越え、東北の復興、そして日本の将来を見据え、夢に向かって力強く踏み出す若者たちの姿に、集まった50名ほどは心を打たれ、勇気を与えられました。

同基金では今後、助成金を通して支援している17のNGO団体とボランティア・グループとの関係の維持、また震災を風化させないための啓蒙活動を実施する予定です。

なお、日本外務省は先月、同基金を創設したフィッシュ氏に対して、この度の東北大震災への支援活動の功績と、長年の日本とアメリカ合衆国との間の相互理解の促進への貢献により、外務大臣賞を授与することを決定しました。

きたる9月18日(火)、日本国総領事公邸で行われる表彰式において、引原毅・在ボストン日本国総領事からフィッシュ氏に表彰状が授与されます。(2012年9月7日記)



美術の会

帽子の女 (1905) Henri Matisse (1869~1954)

San Francisco Museum of Modern Art

2012年1月3日(火)、SFMOMAは無料日、そのせいか入口は大勢の人でにぎわっていた。

Matisse 描く帽子の女に会う。華やかな大きな帽子をかぶった婦人の顔は、鶯色、緑、ピンクで塗られている。きりっとしまった口元、上唇は朱赤でひと塗り、下唇はピンクでひと塗りで、大胆な色の組み合わせである。細くとがったあご、そして振り向く顔はどこかとまどいをみせている。モデルは誰？彼女は画家の妻であった。

丁度同じ頃に Matisse が描いたコペンハーゲン国立美術館の“緑のすじある肖像”(1905)のモデルの表情とはまるで違う。色彩の単純化や平坦な画面は同じであるが画家の妻の顔は堂々としている。果たしてモデルにどんな心の動きが。。そして一瞬の心の動きを画面に表した画家、画面の濃密な時間や空気感、思わず感情移入してしまいます。

2012年の家族旅行総勢10人。10人乗りのレンタカーで Las Vegas / Grand Canyon / Death Valley / Los Angeles / San Diego / San Francisco へ向かう。1988年の冬、Boston 滞在の折、訪れた San Diego 郊外の海沿いの美しい町、La Jolla に立ち寄る。1926年設立の La Valencia Hotel は当時と変わらぬ佇まいをみせていた。ロビー中央の picture window からの眺めは Matisse が好んで描いた窓際のモチーフを見るようであった。両窓際に風に揺れ動く緑濃い木々の葉が見える。日の光にキラキラ輝く海、そして遠くにヨットが見える。

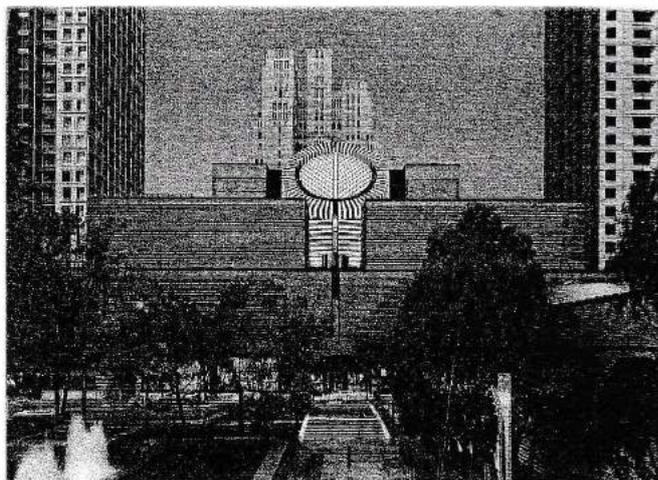
旅の最終地 San Francisco でぜひ訪れたかった SFMOMA、時間のないこともあって Matisse の絵に集中することにした。

旅で見る絵は途中で出会った風景、何があったかすべてを思いださせてくれる。

美術の会 酒井典子、8月20日



Henri Matisse
“Woman with a hat” 1905
SFMOMA



SFMOMA

幹 事 会 記 録

日時：2012年6月22日(金)午後6時30分~9時
場所：新宿サミットクラブ

出席者：22名。

*法眼会長挨拶：JALが今年4月22日から東京-ボストン線の直行便運航を開始した。役員の方に、当会のことを話したので、本日、JALの営業の方がこの会の開催前に挨拶に来られた。

*長島次期会長：MIT新総長の就任式が9月21日にあります。新総長：L. Rafael Raif。

*事務局報告：新会員入会なし。退会10人。

山口静一会員が「三井寺に眠るフェノロサとビゲロウの物語」を上梓されたと報告。(別項)

*会計報告：会計残高 約30万円、「ボストンへようこそ」 手持ち少なく、追加注文した。

*「ボストンへようこそ」、未払本代の調査をすることにした。手持ち販売代金は約100万円。

*HP入力状況報告あり。(4月分まで刷新した。)

*WGの活動報告あり。紅葉狩りの会、美術と歴史の会、お花見の会、音楽の会、ハイキングの会、伝統芸能の会、(別項参照)。

*創立20周年事業準備の打ち合わせ。

*会報発送：8月末原稿締切、10月初め発送予定。近藤副会長よりボストンからの大学生を企業で受入・交流している。報告したいとお申出があった。

*次回幹事会：9月10日(月)

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

日時：2012年9月10日(月)午後6時30分~9時

場所：新宿サミットクラブ

出席者：26名

*法眼会長挨拶：近代国家の条件は民主主義・市場経済・人権尊重の3つと考える。これらを踏まえて37年前に日本は米・英・仏・独・伊と共にサミットの参加国になっている。しかし、今の日本に欠けているものはゆとりとユーモアセンス、笑いである。昨今、話題になっている近隣諸国との対応にも、違った行き方が考えられなかったのか？

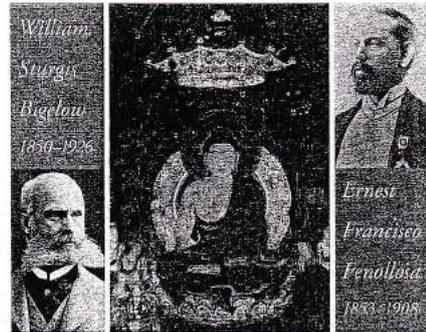
*長島次期会長挨拶：MIT近況報告。昨年来日された Susan Hockfield 総長は7月に退任された。

*吉野顧問・吉野幹事：ボストン訪問報告。「ボストンへようこそ」の未払費用を解明した。ボストン日本人会に20周年記念行事への祝電を依頼した。

*事務局報告：新入会員なし。

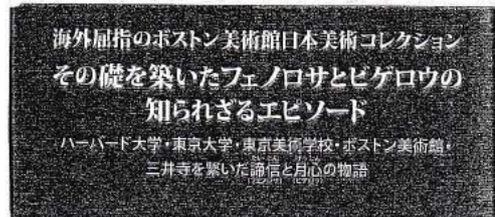
*会計報告：現在残高約100万円。今後、ガイドブックの入金、費用支払いが発生するが、健全財政を保っている。

山口静一 会員の名著ご紹介



三井寺に眠る
フェノロサとビゲロウの物語

山口静一



発行所： 練宮帯出版社、京都
定価 (本体1,900円+税)

(前受け)

*HP：更新状況が報告された。

*お花見の会： 来年の候補地につき意見交換。

*WGの報告あり。(別項参照)

*関係団体：

関幹事：Harvard Club of Japan 主催により、Japan Society of Japan のグリーンリ会長の講演会が9月26日に予定されている。

近藤副会長：京都ボストン交流の会は、今年の7月に解散された。

棚橋幹事：厚子・東光・フィッシュ氏の近況報告、及び日本災害復興基金ボストンの創設者であるフィッシュ氏に対し、日米間の相互理解の促進への貢献により、外務大臣表彰状が授与されることを報告した。(別項参照)

*創立20周年記念行事の打ち合わせ、会報に掲載する式次第を決定した。(12頁参照)

式典行事の第1部だけの出席者は参加費無料。山口静一会員の新刊著書は席上、実費にて頒布。

*(法眼会長)次々期会長候補に鶴顧問の推薦により、ハーバード・ビジネススクール、日本リサーチ・センター長の佐藤信雄氏を推薦する。

*幹事会司会進行担当を藤盛副会長から鶴顧問へ。

*会報発行：10月10日

*次回幹事会：2013年1月24日(木)

日本ボストン会創立 20 周年記念行事について

副会長 藤盛 紀明

日本ボストン会は1992年に東京工業大学百年記念館で創立の会を催してから早20年が経過しました。日本におけるボストン関連団体の中心として、会メンバーの交流活動・関連団体やボストンの各団体との交流など多くの活動を活発に行ってきました。会の次なる発展のためのステップとして20周年記念行事が良い区切りの会になることを期待します。

記念行事は2部に分けて開催されます。1部は記念式典で法眼健作会長のご挨拶や来賓のご挨拶に続いて、フェノロサに関する山口静一先生のご講演、土居陽夫副会長の「会の歩み」の紹介、初代代表幹事(会長)の吉野耕一先生の大気汚染問題について講演されます。2部は総会を兼ねたパーティです。歴代会長のご挨拶、男性コーラスや20周年記念グッズも紹介されます。

多くのメンバーや関連団体の方々が参集して楽しい会になることを期待します。

日本ボストン会創立 20 周年記念式典・パーティ式次第

日時： 2012年11月10日(土)14時～19時
会場： NEC 三田ハウス芝倶楽部301号室、港区芝5丁目21番7号
電話： 03-5443-1400

第1部記念式典

受付開始： 14時

記念式典：14時30分から、 記念パーティ兼総会：17時頃から～19時

司会： 副会長 藤盛紀明

1. 挨拶 会長 法眼健作

2. 来賓挨拶

3. 祝電披露

4. 記念出版報告：「フェノロサ、ビゲロウと三井寺法明院」
山口静一・俣野善彦

5. 「会の歩み」： 副会長 土居陽夫

6. 記念講演：「大気汚染の嘘と本当」
初代代表幹事(会長) 吉野耕一

7. 閉会挨拶： 前会長 鶴 正登

第2部 記念パーティ兼総会

司会： 副会長 近藤宣之

1. 挨拶・乾杯： 二代代表幹事(会長) 井口武夫

2. 歴代会長挨拶：

3. 記念グッズ紹介： 幹事 水野賀弥乃

4. WG・事務局報告：

5. 会計報告： 副会長 山崎規矩子

6. 男性コーラス、他：

7. 閉会 新会長 長島雅則

参加費： 当日払い お一人 7,000円/(同伴者 6,000円)

事前送金 お一人 6,500円/(同伴者 5,500円)

送金方法：

申込先： 日本ボストン会事務局(同封葉書使用し、11月3日までに投函願います)